



(裏面もご覧になって正しくご使用ください。)

DBK-33880

屋 内
天井直付壁面取付兼用器具

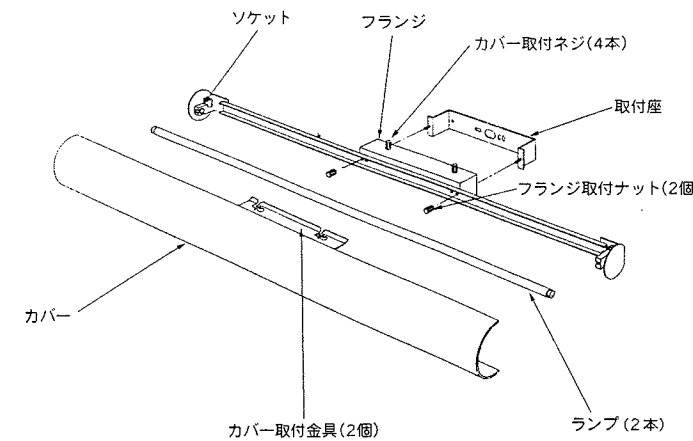
131-41-33880B

■仕 様

- 屋内天井直付壁面取付兼用器具です。
- 取付方向は縦長付、横長付兼用です。
- カバーはアクリルです。取扱いは丁寧にしてください。
- 木ネジ(2本)取付専用器具です。
- 取付けは、天井・壁面の隅より30cm以上離してください。
- 45°までの傾斜天井にも取付可能。

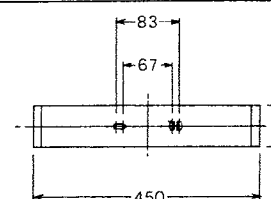
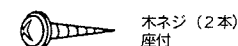
品 番	DBK-33880
電 源 電 圧	100～254V
消 費 電 力	67W
入 力 電 流	0.68～0.26A
力 率	高力率
適合ランプ	Hf電球色蛍光灯 FHF32EX-LX2灯 G13
器 具 重 量	約3.2Kg
電 源 接 続	端子台 (送り可) (最大15A)

■各部の名称



※上図は器具の一部を簡略化しています。

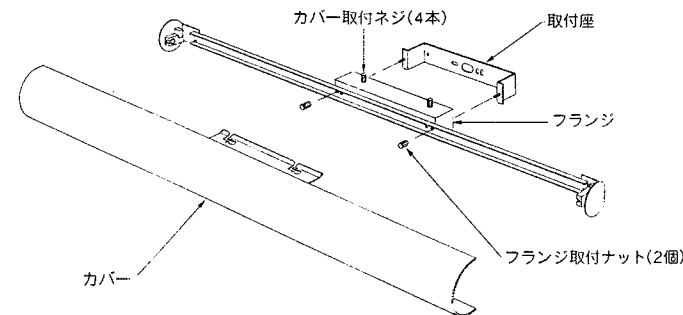
■付属部品 ■取付寸法



■取付方法

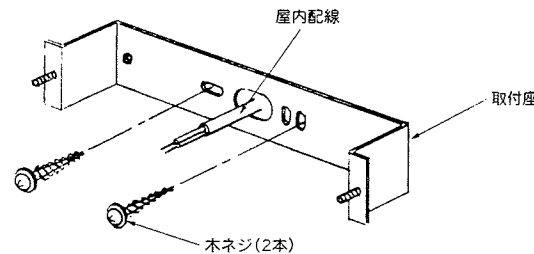
1. 取付座の取外し

- カバー取付ネジ(4本)をゆるめ、カバーとフランジを取外してください。
- フランジ取付ナット(2個)をゆるめ、フランジから取付座を取外してください。



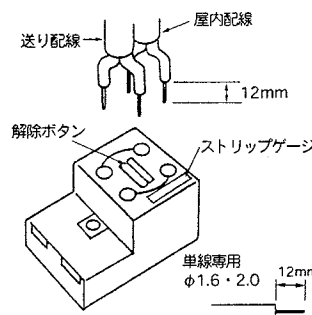
2. 取付座の取付け

- 取付座に屋内配線を通し、木ネジ(2本)で天井面または壁面・傾斜天井の補強材のある位置に取付けてください。



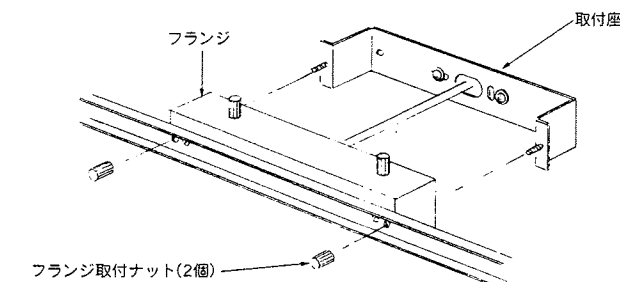
3. 電源の接続

- 屋内配線は適合電線をご使用ください。屋内配線はストリップゲージに合わせて、指定の長さに段むきしてください。
- 屋内配線は挿入面に直角に、奥まで確実に差し込んでください。(一度引っ張り、接続の確認をしてください。)接続後、屋内配線は器具から離して施工してください。送り配線は照明器具専用です。送り配線は接続方法を確認のうえ接続してください。
- 屋内配線を外す場合は、必ず電源を切ってから、解除ボタンをドライバー等で押しながら引き抜いてください。
- 本器具のアース線を使用して、必ずD種(第三種)接地工事を施してください。



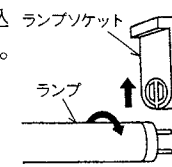
4. フランジの取付け

- フランジを取付座にセットし、フランジ取付ナット(2個)で確実に取付けてください。



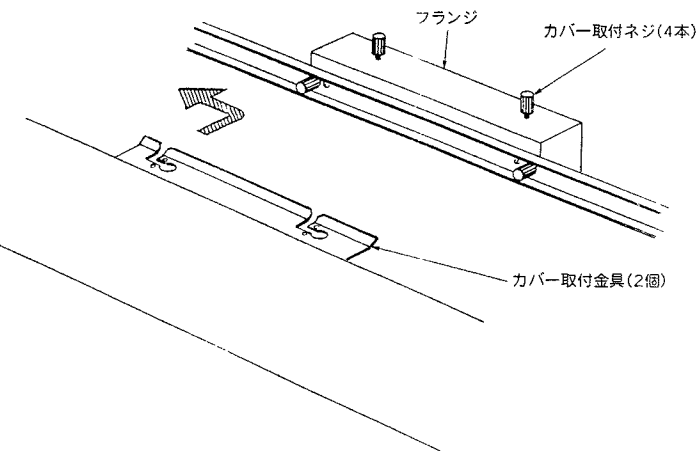
5. ランプの取付け

- ランプ(2本)のピンをソケットの溝にまっすぐ差し込み、カチッと小さな音がするまで90°回してください。



6. カバーの取付け

- カバーのひび割れ・欠け等の異常がないか確認のうえ作業してください。
 - カバー取付ネジ(4本)をゆるめてください。
 - カバー取付金具をフランジのカバー取付ネジ(4本)に図のようにはめ込んでください。
 - カバー取付ネジ(4本)を確実に締め付けてください。
- ※取付が不確実ですと、カバーの落下の原因になります。



7. 使用前の確認

- 取付状態、点灯状態を確認してください。

■ご使用方法

- 点灯、消灯は、壁スイッチで操作してください。

■おことわり

- 電力線搬送を使用した機器と電源を共用すると、電力線搬送機器が正常に作動しない場合があります。
- インバータ器具の近くで、ほかの光高周波方式リモコン器具を使用しないでください。誤動作の原因になります。
- インバータ器具の近くで、ラジオ(AM)を使用しないでください。雑音の原因になります。
- 取付面が充分乾燥してから器具を取付けてください。取付面の乾燥が不十分ですと、器具のメッキ部や塗装部が侵されたり、絶縁不良の原因になります。
- 器具に殺虫剤等をかけないでください。カバー、グローブ等の落下・変質・変色の原因になります。
- 点灯時、消灯後には、若干のきしみ音が発生しますが、異常ではありません。

■保守・点検

1. 6カ月に1回程度、清掃および点検を行うことをおすすめします。点検は、次の項目にもとづいて行ってください。

(1)点検事項

- 正常に点灯しますか。
 - スイッチは、正常に切替りますか。
 - 天井との取付け部、各部件の合わせ目に異常なガタつき、ゆるみはありませんか。
 - 可動部は異常なく動作しますか。
 - 異常な臭い、音、発熱はありませんか。
 - ガラス、プラスチック部品等に、ヒビ、割れ、変形等が発生していませんか。
- ※不明な点および異常を感じた場合は、速やかに電源を切って、販売店、工事店、または当社もよりの支店にご相談ください。

(2)清掃

器具やランプにホコリがつくと、明るさを損なうばかりでなく、器具自体の寿命を短くします。

清掃箇所	清掃方法
金属メッキ処理 金属塗装処理	傷つきやすい部分ですから、柔らかい布で1～2回軽く拭いてください。
アクリル プラスチック	30℃～40℃の薄めた中性洗剤を使用し、洗剤が残らないようによく水洗いをしてそのまま乾かしてください。乾いた布で拭くと静電気が生じ、ホコリがつきやすくなります。(但し、金属部は除く)
木・竹・籐 布・和紙	こまめにハタキや柔らかいハケ、ブラシでホコリを落とし、目の細かい柔らかな布で軽く拭いてください。
ガ ラ ス	中性洗剤またはスプレー式ガラスクリーナーを使用し、スポンジ等で水洗いの後、自然乾燥してください。消しグローブは素手で触ると指紋がつきます。ゴム手袋等を使用してください。

※ガソリン、シンナー、みがき粉、サンドペーパー、たわし等は使用しないでください。

2. 異常時の処置

定期点検により発見された不具合のうち、消耗部品(ランプ、電池等)、交換部品(パネル、パッキン等)は、速やかに販売店、工事店にご相談のうえ、適合品と交換してください。

また、安定器、配線部品等は、定格電圧、常温、1日当たり10時間使用を想定した場合、約8～10年が交換の目安です。新規の器具と交換するか、または当社もよりの支店にご相談ください。

(裏面もご覧になって正しくご使用ください。)